



まんだらげ

広報誌「まんだらげ」
の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、大学の校章にも採用されています。



2014 新春号

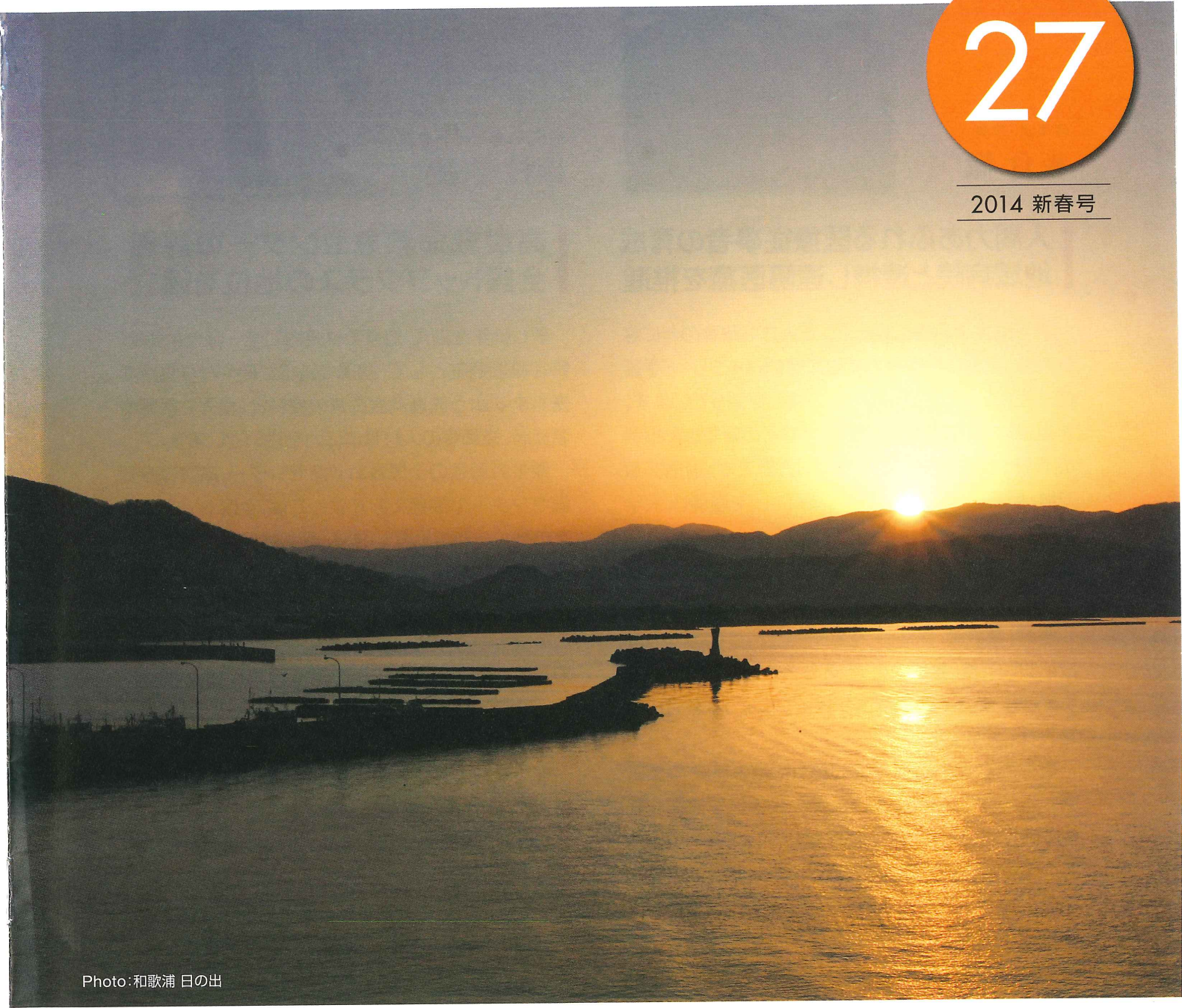


Photo:和歌浦 日の出

CONTENTS

- 新年のごあいさつ
- 特集／小児医療センター、
ハイブリッド手術室 開設
- TOPICS
- お知らせ
- 掲示板

基本方針

- 1 患者さんとの信頼関係を大切にし、安全で心のもった医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめその成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

理念

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

新年のごあいさつ



理事長・学長
板倉 徹

人間力あふれる医療従事者の育成 地域病院と連携し遠隔医療を推進

本年は大学病院におきまして大きな躍進の年になります。4月には東棟の新設に伴いハイブリッド手術室も完成し、更なる診療機能の強化を図っています。また、形成外科、リウマチ・膠原病などの新たな診療科の開設や遠隔医療にも取り組む方針です。遠隔医療では、最新の医療機器や通信技術などを駆使し、大学病院と地域の病院・医師らと連携することで、患者さんが遠方から大学病院に通わなくても専門的な治療を受けることが可能となります。

医師、看護師、保健師、助産師など医療従事者の育成においては、専門教育・基礎医学の習得だけでなく、教養にあふれた人間力が身につくような教育に力を入れて参ります。

研究面では現在、各教室で優れた基礎研究・臨床研究が行われています。高い水準の先端医学研究を発信するため、研究者を育成・支援し、日本のトップレベルの臨床医学研究の拠点をめざします。

臨床面では最先端の機器の導入など設備投資を行い、機能を充実させ高度医療を提供したいと考えています。県内では「がん」による死亡者が年々増加しています。その原因や罹患情報を徹底的に収集・分析し、より効果的ながん予防・医療を推進する必要があります。将来的には県に「がんセンター」を設立するのが私の夢です。

今後も地域病院と連携し、最高の医療を安全に提供すべく、全職員一丸となって取り組みますので、みなさまのご支援ご協力を心からお願い申し上げます。



病院長・第一外科教授
岡村 吉隆

高度救命救急センターの評価 全国トップクラスの地位を確立

新しい年を迎え、当院では県内で唯一の大学病院、特定機能病院として、県民の皆様が健やかな生活を送れますよう先進高度医療の提供と、優秀な医師や看護師、技師等の人材育成に力を注いでいます。

厚生労働省の全国救命救急センター、高度救命救急センターの評価におきましては、全国トップクラスの地位を確立しています。最先端医療ロボット手術(ダヴィンチ)やトモセラピー・リニアック(放射線治療装置)、ハイブリッド手術等の導入に続き、念願でありました東棟も完成し、最新の内視鏡センターの増室、医師派遣の任務を担う地域医療支援センターを設置いたしました。手術室も現在の12室から19室になり、より充実した医療体制が整いました。

また地域の医療機関と相互に協力して、役割分担をしながら一貫性のある医療を患者さんに提供する連携登録医制度も定着してきているのは嬉しいことだと思います。

今後は化学療法センターの増床や新たな診療科の開設、専門医制度の導入、医学生の臨床実習を充実させるためのスチューデント・ドクター制度の導入等、新たな試みにも取り組んでいく次第です。

県民の皆様が愛され、信頼される地域の拠点総合病院として、安心・安全で質の高い医療を提供していきたいと思っております。

高度医療を提供できる医師が 和歌山全体を支え合う

現代の医学はまさに日進月歩、めざましく着実に進歩しています。教育・診療・研究を三本柱として、その最先端医療を駆使出来る優秀な人材育成に力を注いでいくことが、私たちの任務だと思います。

使命感を持って高度な医療を提供出来る医師が和歌山県全体を支え合うことが理想です。しっかりとしたチームワークを組めるバランスのとれた医師が県下に巣立っていってくれることを願っています。

新たに設立された地域医療支援センターも、人材育成や遠隔診療において威力を発揮してくれるものと確信しています。地域の皆様と、その絆をますます深めていきたいと願っています。



副院長・循環器内科教授
赤坂 隆史

県下約800人の登録医と連携し 安心・安全な高度医療を提供

本院は泉南および和歌山県全域の中核病院として、すべての診療分野の領域をカバーするとともに、「安心・安全」をモットーとした先進高度医療の提供を行っています。

また県下で開業している約800人の連携登録医と常にコミュニケーションを取り、視野を広めながら高度な地域医療にも取り組んでいます。どの地域にいても迅速で適切な治療が受けられるということは、患者さんやそのご家族の負担軽減にもつながり喜ばれています。

県民の皆様が健やかな生活が送れるように、そのためにも一層の努力を続けていきたいと思えます。



副院長・皮膚科教授
古川 福実

患者さんに満足してもらえるよう 質の高い看護を提供

私たち700人余りの看護職員は、地域の皆様から選んで頂ける病院を目指して日々研鑽を積んでいます。「安心・安全で質の高い医療の提供と地域医療への貢献」を理念として、職員一人ひとりが自分の仕事に責任とプライドを持ち、目標に向かって努力出来るような環境を提供することも心掛けています。「この病院を選んで良かった」と患者さんとそのご家族に満足して頂けるような、優れた看護従事者の育成と質の高い看護を提供することが使命です。お互いに理解し協力すること、支え合うことの大切さを伝えていきたいですね。

県内唯一の大学病院の利点でもある、連携体制を活かした医療を提供していきたいと思えます。



副院長・看護部長
岡本 恭子

特集

最新設備の導入

次世代を担う子どもたちへ、小児医療センター開設 「ゆめ」をコンセプトにした病棟環境 準無菌室、感染症対策室を新設



温もりあふれるアート環境が印象的な小児医療センターのカウンター



ゆめ造村長

和歌山県立医科大学附属病院では、このたび小児高度医療の機能強化を図るために「小児医療センター」を開設しました。もともと7階東病棟にあった小児科病棟を10階東病棟に移転しました。

県内唯一の日本小児血液・がん学会認定専門医・研修施設として、小児がん、小児白血病など感染対策を要する子どものために、準無菌室(1床)5室、と感染症対策室(1床)2室を新設。また、在宅看護をしている家族を一時的に看護から解放するため、子どもを一時入院させることも検討しています。

「新設した小児医療センターとすでにある総合周産



吉川 徳茂 教授

期母子医療センターが、和歌山県における小児・周産期医療体制の核となり、地域医療機関との連携を図りながら小児科医が周産期医療から子どもの発育の全領域に渡りサポートしていく体制をめざしま

す」と小児医療センターの吉川徳茂教授。

そのほか、今回の小児医療センターは「ゆめ」をテーマに、職員らが「子ども村」をイメージし病棟の環境づくりに取り組んできました。小児医療センターのカウンターには、子ども村の象の村長「ゆめ造村長」を描き、子どもたちを温かく迎えます。

また、病棟のプレイルームを拡大し、病棟専門の保育士を配置しました。また、絵本や書籍も充実し、入院中の子どもたちの環境を充実させました。

「看護の感性を研ぎ澄ませ、成長と発育を育む専門性の高い看護をめざしています。医療チームと家族との

パイプ役を果たすとともに、子どもたちが安心できる看護をスタッフ一丸となって提供したい。子ども村の住人たちのゆめを支える看護をしたいですね」と話す石井千有季看護師長。



石井 千有季 看護師長

新たな治療の可能性が広がります

今年4月、最新鋭のハイブリッド手術室開設

手術台に回転撮影機能をもつ 高性能な血管造影装置を統合



ハイブリッド手術室によってどのような治療が可能になるのか詳しく解説する岡村病院長



大動脈瘤に対するハイブリッド治療について語る第一外科の西村好晴講師



カテーテルを用いて大動脈弁を置換する治療法(TAVR)について説明する久保隆史講師

和歌山県立医科大学附属病院では、現在建設中の東棟に「ハイブリッド手術室」を新設します。「これまではカテーテルを用いた手術（血管内治療）と外科手術は別々の場所で行われていましたが、その両者の機能をまとめた手術室がハイブリッド手術室です。手術台に移動機能や回転撮影機能がある高性能な血管造影装置を統合したシステムで、高解像度の透視や3D撮影ができる最新鋭手術室です。

これによって、カテーテルを用いた血管内治療と外科治療を組み合わせる方法で、大動脈瘤に対する手術をより低侵襲で行うことが可能となります。」と第一外科の西村好晴講師。

65歳以上の高齢者に多い心臓の大動脈弁狭窄症（きょうさくしょう）に対する新しい治療法（TAVR）を導入できるほか、胸部、腹部の大動脈瘤（りゅう）などの治療を中心に対応します。

循環器内科の久保隆史講師は「TAVRは、カテーテルを使って人工弁を患者さんの心臓に留置します。高齢の患者さんや外科手術が難しい患者さんでも低侵襲で治療を受けることができます」と解説し

ます。

「ハイブリッド手術室の完成により、治療法の大きな躍進が期待できます。さらには手術が安全かつ迅速に実施可能になります。和歌山県内の方々には先進的な医療を提供できるよう努力していきたい」と岡村吉隆病院長。今年4月に完成予定です。



ハイブリッドシステム（イメージ）



TOPICS



岡本看護部長が和歌山県ナース章を授与されました

和歌山県ナース章は、県内において、保健師・助産師・看護師・准看護師として永年勤務し、本県の看護の向上、後輩の育成等に顕著な功績をあげた方々に対し、その功績をたたえることを目的に知事が授与するもので、平成25年度は13名の方が受賞されました。平成25年度は岡本看護部長が受賞し、昨年11月7

日(木)に和歌山県庁において授与式が執り行われました。受賞を受けて、岡本看護部長は、「今日まで多くの方々に支えられ、感謝の気持ちで一杯です。これからも患者さんやご家族、また職員からも信頼される病院、看護部を目指して精進する所存でございます」と語りました。



■新しい病院棟が3月中旬から運用開始します

平成24年11月から進めております新しい病院棟(附属病院東棟)の建設工事により、皆様にはご迷惑おかけしましたが、建物はほぼ完成し、今年3月中旬から運用を開始します。

新病院棟の運用により、和歌山県の医療拠点としてより高度な医療の提供を進めてまいります。



■和歌山市、海南市の消防本部、合同災害 訓練実施

平成25年11月10日(日)に和歌山市消防局及び海南市消防本部と合同で災害訓練を行いました。これまでも病院独自で行っていましたが、近隣の消防機関と合同で訓練を行うことにより、災害現場の救助活動から病院の負傷者受入までの消防機関との連携について、より深めることができました。



和歌山県医学偉人シンポジウム

～「古武弥四郎・小山肆成・華岡青洲」3名の功績を称える～

参加費:無料

■日時 2月13日(木)午後1時30分～

■場所 和歌山県立医科大学医学部講堂

和歌山市紀三井寺 811-1

和歌山県出身で医学史に名を残す偉人の功績を知ってもらうことを目的とし「和歌山県医学偉人シンポジウム」を開催します。入場希望の方は直接会場へご来場ください。

プログラム

(1) 3偉人業績紹介

◇「古武弥四郎」についての業績紹介

和歌山県立医科大学学生化学教室教授 井原 義人

◇「小山肆成」についての業績紹介

和歌山県議会議員 立谷 誠一

◇「華岡青洲」についての業績紹介

和歌山市立博物館総括学芸員 高橋 克伸

(2) 特別対談

テーマ

「乳がん撲滅にむけて」

【ゲスト】

園 まり(歌手・女優)

【パネリスト】

板倉 徹

(和歌山県立医科大学学長)

尾浦 正二

(和歌山県立医科大学第一外科准教授)

ピンクリボンの会※乳がん撲滅運動啓発の会



園 まり

(3) 図書館展示見学 自由参加

【問い合わせ】

和歌山県立医科大学和歌山県医学偉人シンポジウム係

TEL 073 - 441 - 0787



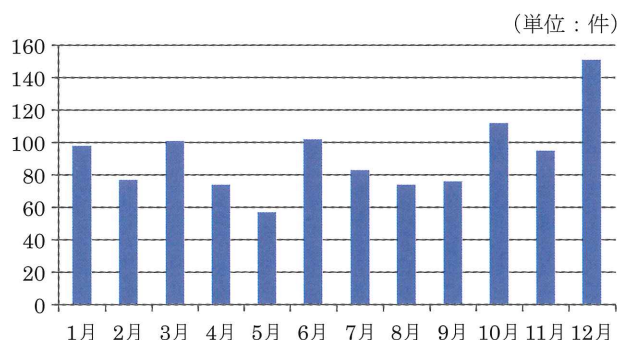
季節の病気 Q&A <食中毒について>

Q1 食中毒の分類と症状は?

食中毒は、病原性の細菌やウイルス、病原性細菌からつくられる毒素、有害な化学物質に汚染された食品を飲食することによって、一定の潜伏期間を経て腹痛、嘔吐、下痢、発熱などの症状や神経症状などの健康障害を生じることが多い。その原因によって細菌性食中毒、ウイルス性食中毒、化学性食中毒および自然毒食中毒等に分けられます。

Q2 食中毒が発生する時期は?

過去の食中毒では、5月のゴールデンウィークから10月の運動会シーズンまで食中毒が多発したこともありますが、昨年の厚生労働省統計の食中毒発生件数を右図に示すように冬場でも多く発生しており、この特徴としてノロウイルスによる食中毒があげられます。



Q3 調理をする時の注意点は?

食中毒は原因物質により対処方法は異なり、一般的に言われていることは食材を適正な温度で保管し、洗うことが出来る食材は水道水で洗い、魚や肉、卵など、生で食べるのは避け十分加熱することが大切です。また、料理の作りすぎは避け、調理後は速やかに食べて頂くことをおすすめします。疑わしい食品・料理は食べないようにして下さい。

予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「**予約制**」とさせていただきます。

ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

■医療機関からのご予約

- ① かかりつけの医療機関などから当院所定の「**予約申込書**」にて地域連携室にFAX送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。
- ③ 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

地域連携室

FAX番号: 073-441-0805
 受付時間: 月～金 9:00～17:00
 (土・日・祝日・年末年始を除く)

※毎週金曜日は試行的に18:00まで受付しています。

■ご本人からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などで紹介状**をご用意ください。
※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「〇〇科 〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② 「**当院予約センター**」に直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

電話予約
センター

電話番号: 073-441-0489
 受付時間: 月～金 8:30～16:00
 (土・日・祝日・年末年始を除く)

※電話だけでなく9:30～17:00まで
 院内の予約窓口も開設しています。

看護師
助産師
募集中

和歌山県立医科大学附属病院では看護師・助産師を募集しています。

※募集等詳細につきましては当大学ホームページをご覧ください。または下記までお問い合わせください。

TEL 073-441-0711 (事務局総務課) URL <http://www.wakayama-med.ac.jp>

公立大学法人和歌山県立医科大学 和歌山市紀三井寺811-1

患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざま医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

<外来受付時間>

- ・受付時間 午前8時50分～午前11時30分
- ・再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
- ・休診日/土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)

※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。